

～全国と比べて依然として低い四国の下水道処理人口普及率～ －平成19年度末の四国地方の下水道整備状況について－

国土交通省四国地方整備局において、平成19年度末時点の四国地方における下水道整備状況を取りまとめましたので、結果をお知らせします。

なお、国土交通本省では、四国地方を含む全国の下水道整備状況の取りまとめについて公表いたします。(8月22日(金)14:00)

下水道処理人口普及率

平成19年度末の四国地方の下水道処理人口普及率は、**33.9%**(平成18年度末33.1%)に上昇しました。処理区域内人口は約138万人となり、平成18年度末から平成19年度末の1年間に、**約2万6千人が新たに下水道を利用できるようになり**ました。しかしながら、**全国の下水道処理人口普及率71.7%と比較して、依然として低い状況にあります。**

四国内の普及率を県別に見ると、徳島県の12.1%は47都道府県中最下位であり、同じく45位高知県(30.1%)、42位香川県(38.6%)、38位愛媛県(44.7%)と全ての県が全国の下位ランクに位置しています。

とりわけ人口規模の小さい市町村における普及率は、未供用又は未着手である場合も含めて、総じて一段と低い状況にあります。

国土交通省四国地方整備局では、引き続き四国4県と、計画的な下水道整備の促進に努めていきたいと考えています。

平成20年8月22日

国土交通省四国地方整備局

問い合わせ先

TEL (087) 851-8061

建政部 都市・住宅整備課 課長

課長補佐

中村 孝

(内線6161)

植松 真二

(内線6162)

平成19年度末 下水道処理人口普及率 各県別内訳

都道府県名	総人口 (住民基本台帳人口H20.3.31) (人)	処理区域内人口 (供用開始公示済区域内人口) (人)	平成19年度末普及率 (%)	平成18年度末普及率 (%)	普及率増加分
徳島県	805,951	97,281	12.1%	11.9%	0.2%
香川県	1,019,333	393,518	38.6%	37.7%	0.9%
愛媛県	1,471,510	657,899	44.7%	43.5%	1.2%
高知県	784,038	235,605	30.1%	29.3%	0.8%
四国計	4,080,832	1,384,303	33.9%	33.1%	0.8%

(注) 下水道処理人口普及率は小数点以下2桁を四捨五入している。

※整備指標の定義

$$\text{下水道処理人口普及率(\%)} = \frac{\text{処理区域内人口}}{\text{総人口}} \times 100 \quad (\%)$$

《参考 平成18年度末 下水道処理人口普及率 各県別内訳》

都道府県名	総人口 (住民基本台帳人口H19.3.31) (人)	処理区域内人口 (供用開始公示済区域内人口) (人)	平成18年度末普及率 (%)	平成17年度末普及率 (%)	普及率増加分
徳島県	811,678	96,358	11.9%	11.5%	0.4%
香川県	1,023,074	385,470	37.7%	36.6%	1.1%
愛媛県	1,479,775	644,017	43.5%	42.2%	1.3%
高知県	792,419	232,509	29.3%	28.2%	1.1%
四国計	4,106,946	1,358,354	33.1%	32.0%	1.1%

(注) 下水道処理人口普及率は小数点以下2桁を四捨五入している。

四国における下水道整備の状況【平成19年度末】

1. 下水道処理人口普及率【平成19年度末】

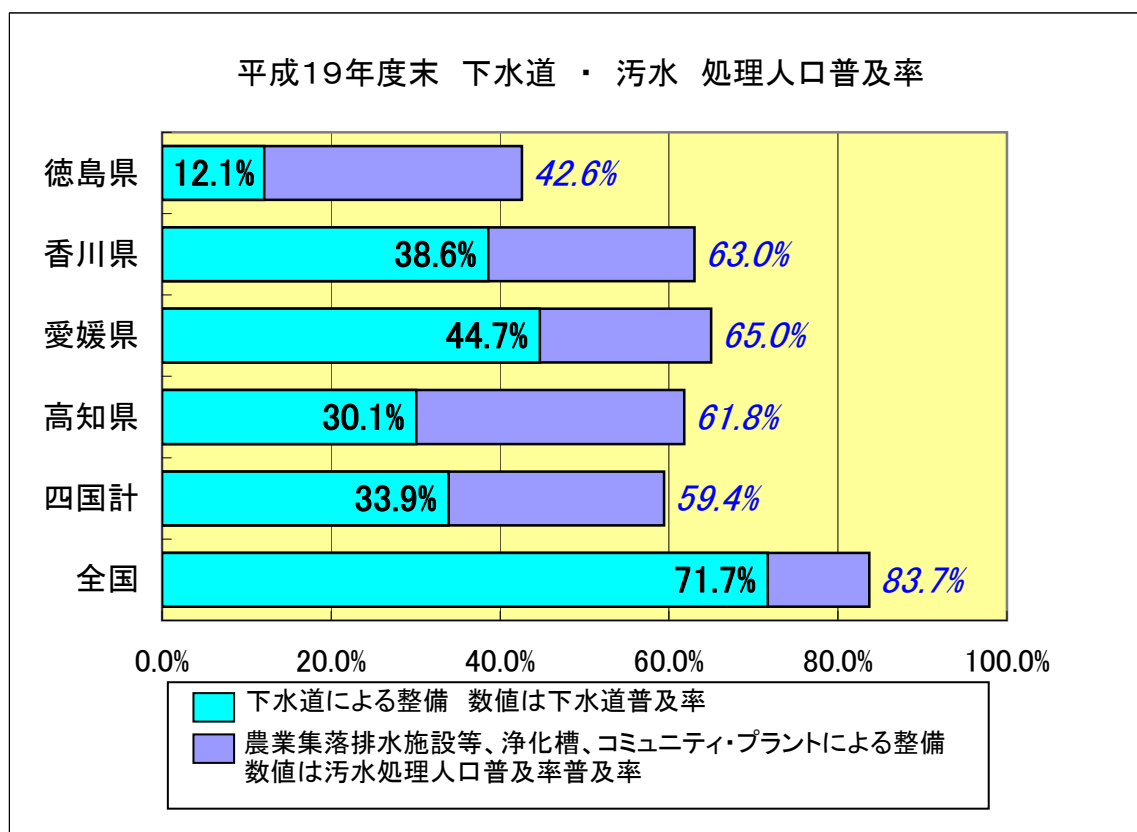
県名	普及率	順位	備考(平成18年度末)
徳島県	12.1%	47	11.9% (47)
香川県	38.6%	42	37.7% (42)
愛媛県	44.7%	38	43.5% (38)
高知県	30.1%	45	29.3% (45)
四国計	33.9%		33.1%
全国	71.7%		70.5%

《参考 汚水処理人口普及率【平成19年度末】》

県名	普及率	順位	備考(平成18年度末)
徳島県	42.6%	47	40.7% (47)
香川県	63.0%	44	61.2% (44)
愛媛県	65.0%	41	63.2% (41)
高知県	61.8%	45	59.2% (45)
四国計	59.4%		57.5%
全国	83.7%		82.4%

※汚水処理人口普及率

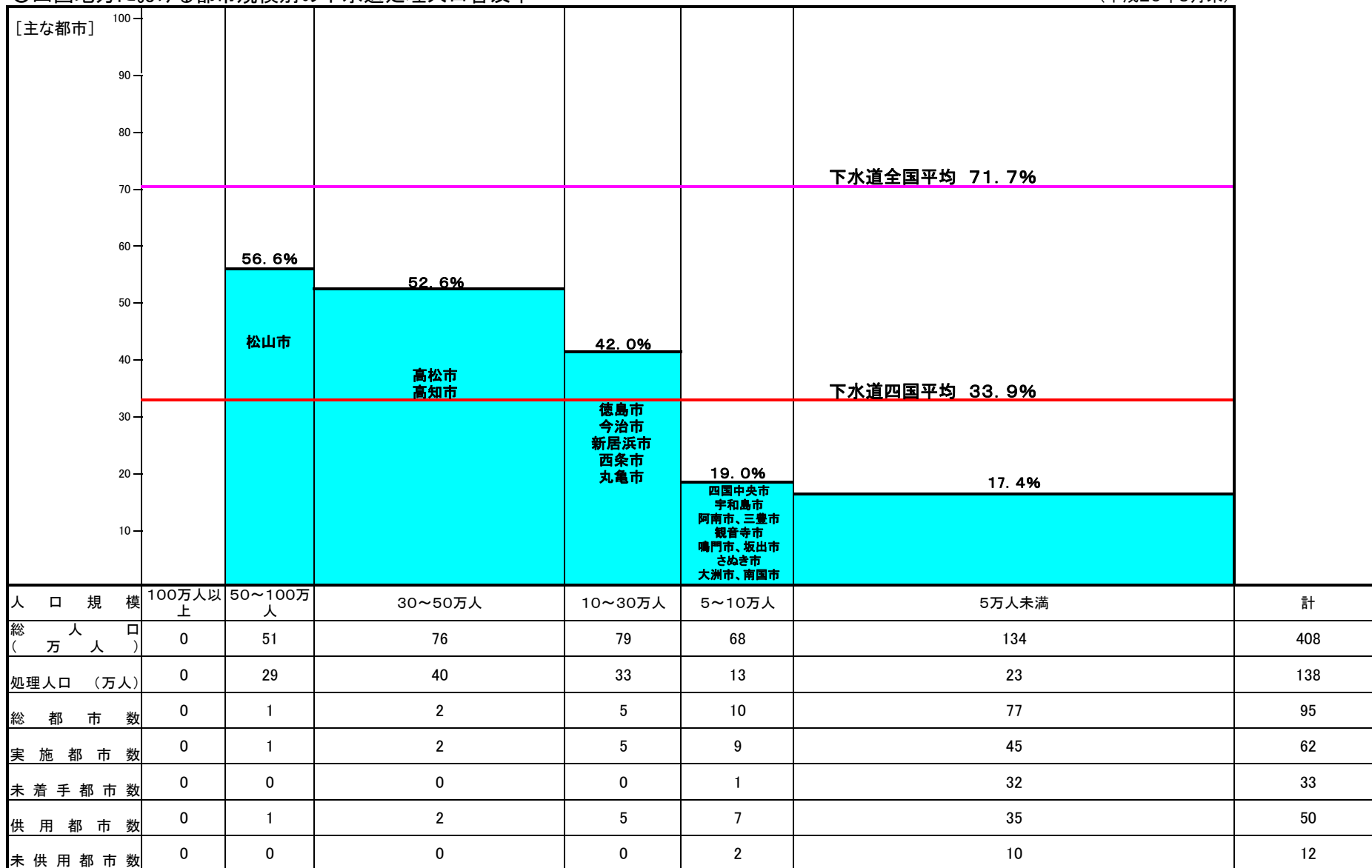
下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽、コミュニティ・プラントの処理人口を各県の行政人口(住民基本台帳人口)との比率で表した指標



下水道の整備状況

○四国地方における都市規模別の下水道処理人口普及率

(平成20年3月末)



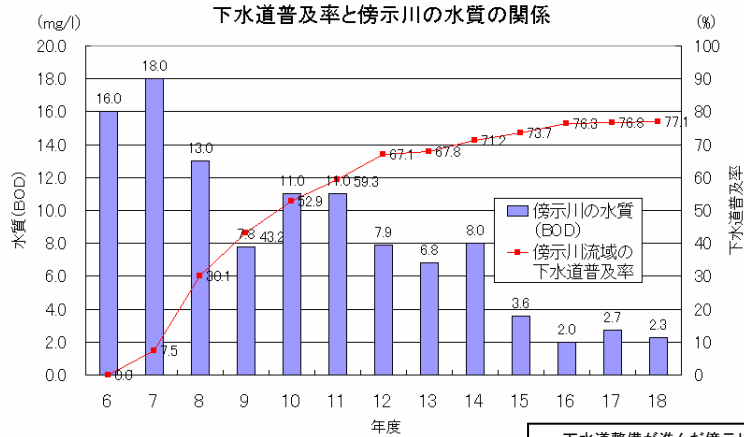
注) 処理人口は、四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。

未着手都市数33のうち14の都市では下水道整備の予定が無い。

○豊かな清流、美しい海との共生に向けた下水道の整備促進 (参考資料)

《下水道の整備効果》

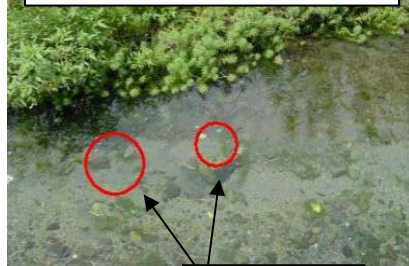
下水道整備により河川や海の水質も改善し、豊かな清流、美しい海が甦ります。



下水道整備が進んだ傍示川



河底の小石が確認できるほど透明度が高い状況



(平成15年)

確認されたメダカ (絶滅危惧Ⅱ類)



(平成元年頃)

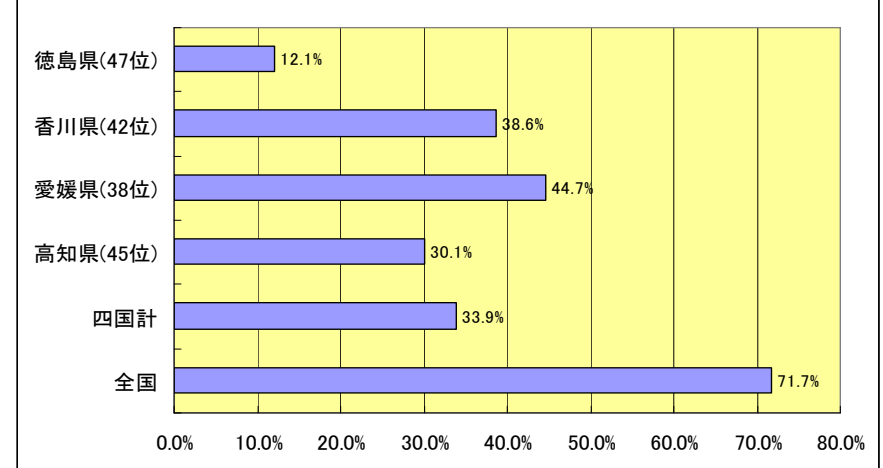


四国には、「最後の清流」と呼ばれる四万十川、多島美に恵まれた瀬戸内海に代表される美しい水環境が存在

しかしながら、四国地方の下水道整備率は、全国に比べて大変に低い状況

(下水道以外の、汚水処理施設を含めた全体の整備率も同様の傾向)

下水処理人口普及率(H20年3月末)



このような誇るべき資産を後世に引き継いでいくためにも早期に下水道整備を進めていくことが必要。

四国下水道ビジョン
(平成15年6月)

整備局と四県が共同で今後の下水道整備の中長期的なあり方を提示

〈5つの目標〉

- ・豊かな清流、美しい海との共生
- ・安全なまちづくり
- ・循環型社会の構築
- ・健全な下水道経営の構築
- ・住民との協働

○松山市内を流れる傍示川

下水道整備が急速に進められたことに伴い、河川の水質が改善し、人々が和める水辺へと変化